



首都大学東京
観光科学教室
学生企画・制作の情報誌
2019. vol.34

- ・観光科学教室のこれまで
- ・研究室の取り組み特集 一岡村研究室
- ・ツーリズム旅行先アンケート 春休み編
- ・ツーリズム人物図鑑 vol.1

令和元年 5月号

卒業おめでとう!



▲2018年度卒業式・修了式 (DC: 3名、M2: 9名、B4: 22名の計34名が卒業しました)

観光科学教室のこれまで

生まれ変わる観光科学教室!

2018年に行われた学部再編により、自然・文化ツーリズムコースは「観光科学科」に名称が変更されました。それに伴い、学部1・2年が新たに加わり、ついに2019年4月には、学部生・博士課程全ての学年が揃いました。所属学生も総勢151名と、今までよりも多くの学生がともに学ぶ観光科学教室へと成長しました。

ここで観光科学教室の生い立ちを振り返ります!

<年表>

- 07年4月 大学院観光科学専修発足
- 08年4月 博士前期課程1期生入学
- 09年4月 観光科学域へと改組
学部 自然・文化ツーリズムコース 発足
- 10年4月 博士後期課程1期生入学
学部 自然・文化ツーリズムコース 1期生受け入れ開始
(学部3年時に他学部・他コースから転属)
- 13年4月 観光科学教室公認キャラクター・ツーリス誕生
- 18年4月 観光科学科に名称変更
学部1年生からの受け入れ開始
- 19年4月 学部1年から博士課程全ての学年が揃う



▲Work x 2工場ツアー企画メンバー

当日は、8名の参加者とともに工場を巡りました。ターゲットである学生からの参加は少なかつたのですが、幅広い層から参加者が集まってくれました。作業体験を楽しむ子供、精度の高い設計に感動する学生、最新鋭の技術に興奮する大人達。思い思いに町工場の魅力を感じ取ってくれました。また、町工場も「普段の工場オープンとは異なる付加価値を」と、参加者への豪華プレゼントや普段のオープンでは入れない場所にも案内していただくなど、工場のやる気と熱意にも支えられ、見事大盛況のうちにツアーを終えることができました。

当日の様子

研究室の取り組み特集 一岡村研究室

大田オープンファクトリー「Work x 2 工場ツアー」開催!

毎年秋頃大田区新田丸エリア(下丸子・武蔵新田)と昭和島や森ヶ崎を中心とした臨海エリアで開催される町工場の一斉公開イベント。岡村祐准教授を中心に、観光科学教室の学生も様々なイベント・企画で携わっています。開催8回目を迎える今年は、新たに「町工場のシユウカツプロジェクト」が始動しました。今月号では、その取り組みに迫ります!

町工場が抱える問題の1つとして、今後の担い手不足があります。その課題解決の一助となりえないだろうかという思いから、「町工場のシユウカツプロジェクト」は始動しました。工業を学ぶ学生と町工場とが関わる機会を作ることをコンセプトに、横浜国立大学と首都大学東京の岡村研究室がそれぞれプログラムを立ち上げました。



▲ツアーを率いる様子

岡村研究室は、「Work x 2工場ツアー」を企画・運営しました。このツアーは、参加者と町工場を巡りながら、町工場見学や作業体験、職人との対話を行うことで、「町工場で働くこと」のイメージを抱いてもらうものです。参加者の募集から町工場との打ち合わせ、ツアーガイドまで自分たちの手で行いました。

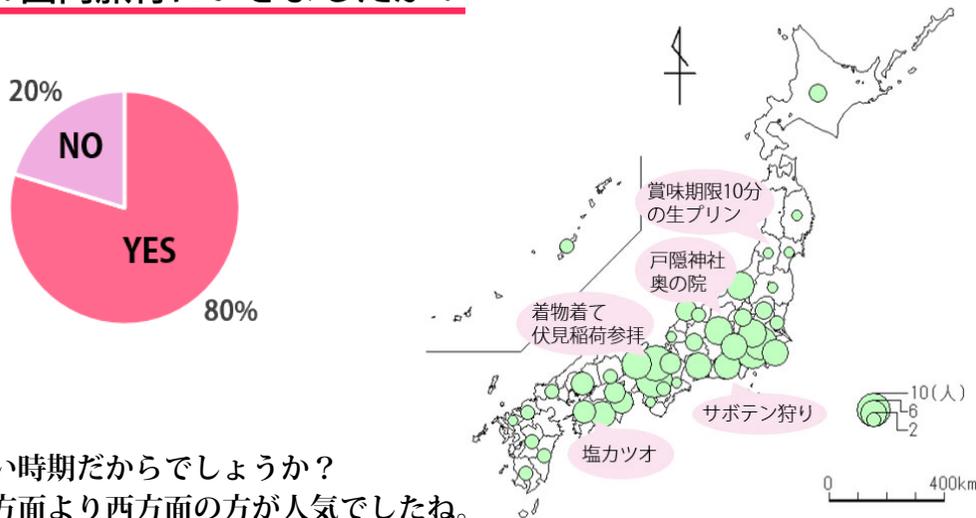
どんなプロジェクト?

ツーリズム旅行先アンケート 春休み編

大学生の春休みは……とにかく長い！ その期間をどのように活用するかは人それぞれですが、観光科学教室の皆さんは、あちこちへ出かけていたみたいです。早速、気になる結果を Check!

(回答 58 件 / ご協力ありがとうございました)

Q1. 国内旅行にいきましたか？



寒い時期だからでしょうか？
北方面より西方面の方が人気でしたね。

Q2. 海外旅行にいきましたか？



気軽に行きやすくなったアジアのほか、
地球の真裏にあたる南米まで足を伸ばした人もいたようですね。



ツーリズム人物図鑑 vol.1

行動・経営科学領域 日原 勝也 准教授

1989年運輸省(現国土交通省)入省。1994年ハーバード大学ケネディスクール留学・M.P.P取得。2012年筑波大学ビジネス科学研究科修了(経営学博士取得)。2016年鉄道建設・運輸施設整備支援機構・審議役。2018年より首都大学東京・都市環境学部・観光科学科・准教授就任。

昨年赴任され、観光科学域に新しい風を吹かせている日原先生。
この1年を振り返り、コースに抱いた率直な印象と先生の素顔に迫ります。

分野の幅広さに驚かされる。逆に言えば、難しさでもある。

◇この1年を振り返っていかがでしょうか？

新しい環境に慣れるのと、授業などの仕事を一通りこなすことで精一杯でした。首都大学東京では、これまでに国交省で触れた経済学、法学、交通工学、まちづくり学だけではなく、環境学、生態学、情報工学、心理学という未経験の分野も多くあり、幅広さを感じつつ、驚きも大きいです。先生方と議論する際に、改めて幅の広さを感じます。

◇首都大学東京に着任されるまではどのような仕事をされていたのでしょうか？

まずは運輸省(現国土交通省)に入り、その中で留学を経験したり、公務員のみで、国立大学にて研究教育に携わったりしました。そのあとは鉄道建設・運輸整備支援機構で働きました。ここでは、建設主体として新幹線を作り、営業主体(JR)に貸し付けるなどの業務をしているのですが、大規模修繕も担当しており、ちょうど青函トンネルの大規模修繕に関わる仕事をしました。当時は、青函トンネルの大規模修繕の予算制度がなかったので、その予算制度を関係者と一緒を作り、大規模修繕工事が必要になったときに備える仕事をしました。

◇運輸省に入ろうと思ったきっかけはあったのでしょうか？

学生時代、授業や図書館で隣になるような人は、みんな普通に司法試験受けたり公務員

試験受けたりしていた状況でした。そんな中で、自然と霞が関に向かい、感性的に決めた感じです。ある意味、大学の環境に影響された部分は大きいと思っています。

◇休日はどのようにお過ごしですか？

散歩をよくします。メタボ解消のためですね。やはり公務員時代に体を酷使したこともあり、最近では、休日はジムに行ったり、家の周辺を散歩したりして体を動かすように努めています。

◇今後、観光科学教室でやっていきたいことなどありますか？

まだそこまで頭が回らないのが正直なところ。務めを果たしながら、環境にも仕事にも慣れていきたいと思っています。授業も新しいものを作っていかなければならないです。そういう意味では、チャレンジ続きだと思っています。

◇学生へのメッセージをお願いします。

就職状況という意味では、今は売り手市場です。景気も悪くないですから、皆さんにとってはいいタイミングだと思っています。だからこそ、今の状況を生かしてキャリアを積み上げていってもらえればいいなと思っています。

編集後記

久々の発行であり戸惑うこともありましたが、楽しく制作できました。1人でも多くの方に読んでいただき、少しでも観光科学教室への関心が高まってくると嬉しいです。

編集長 : 大川 恭平

編集委員 : 菅井 颯、田村 優衣、天目 岳志

発行 : 首都大学東京観光科学教室